

時代を超え、国境を越える世界基準のモノと人。

ライトニング2012年4月号増刊 [クラッチマガジン] Vol. 1

ライトニング2012年4月号増刊 (毎月22日発売) 2月22日発売 第19巻 第4号

CLUTCH

Authentic, Borderless & Creative Production

¥680

Magazine



“クラッチ”

Boots my love, so sweet

特集2

Heat up
British Motorcycle

世界中で脚光を浴びる
英国バイク

ハリウッドの ファッションリーダーも 英国旧車を 相棒にする。

ハリウッドセレブが足を運ぶアパレルショップ「MISTER FREEDOM」のオーナーも愛車であるトライアンフと共に暮らす一人。すでに相棒とは20年の付き合いになるという。彼もまた英国旧車ブームの先駆者のひとりである。

"MISTER FREEDOM" is a vintage & an apparel shop which the Hollywood celebs step in. Its owner? is one who lives with beloved Triumph, has been together with it for 20 years. He is also the front man who created the fad of the British old motorcycle.

Photo by Tadashi Tawarayama Text by CLUTCH Magazine

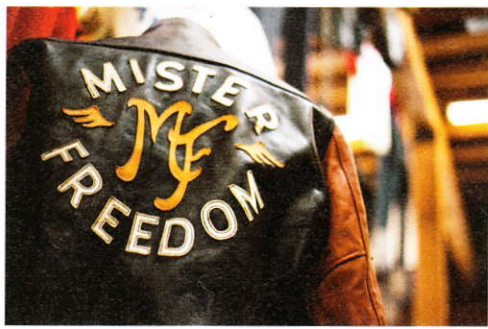
写真/依山忠 文/編集部

時にはショップの
ディスプレイにもなる。

フレンチ・ワークやマリンテイスト、カスタムデニムなどクリストフがブームの先駆けとなったスタイルは数多い。いま、アメリカのヴィンテージカジュアル業界では、彼の動向、彼のデザインに注目が集まっている。まさしくファッションリーダーのバイクを見せてもらった。

彼のトライアンフはファッション業界ではとても有名なバイクである。なぜなら、様々なメディアに登場す





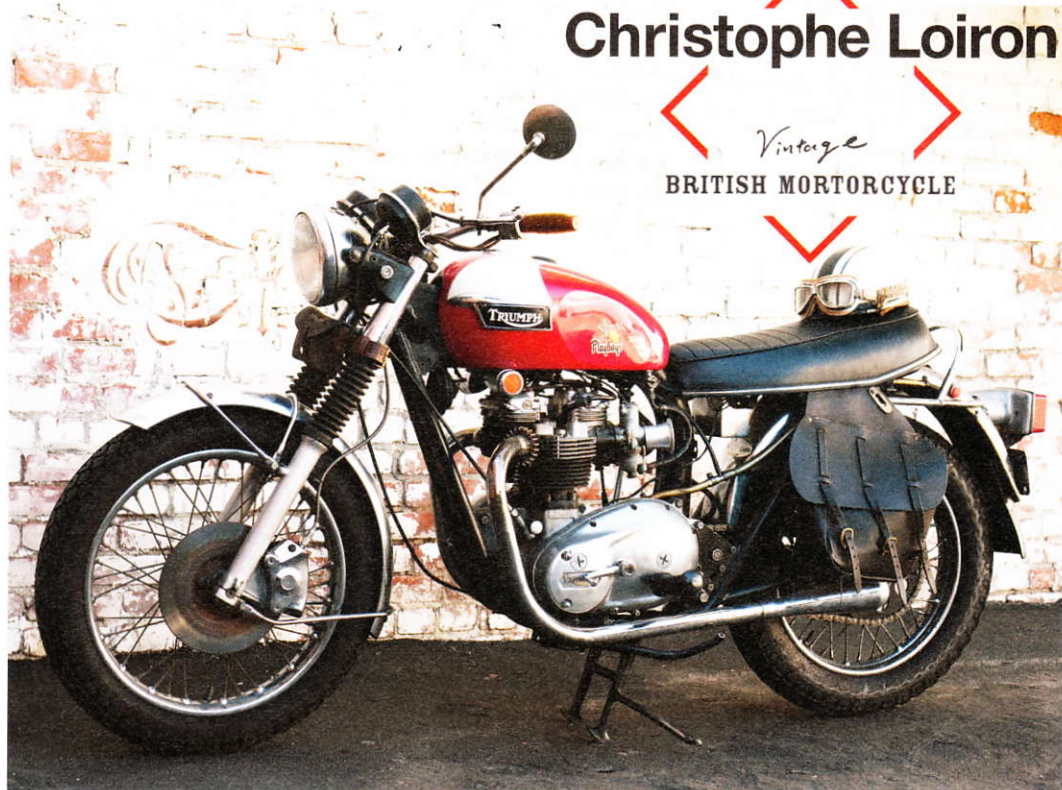
モーターサイクルをこよなく愛する彼がデザインするプロダクトにはライディングスタイルをイメージしたウエアも数多い。このレザージャケットはまさにその代表格である

る際、彼はよくこのボンネビルと一緒に写真を撮られることが多いのだ。「MISTER FREEDOMは赤いタンクのボンネビルに乗っている」これは業界人の間では常識となっているのだ。近年、ファッション業界では英国旧車バイクを飾る、もしくはそれに乗ることは一つのステイタスとなっている。しかし、そんな現象が起こる前から、クリストフはこのボンネビルを日常の足として使っていたのだ。

フランス生まれのクリストフが1990年代にアメリカに移住したとき、この76年トライアンフ・ボンネビル750を手に入れた。それ以来このマシンと共に約20年の年月を過ごしている。

Christophe Loiron

Vintage
BRITISH MOTORCYCLE



1975年 トライアンフ・ボンネビル750がクリストフの愛車。
真紅のタンクはトライアンフには珍しい。時には店内にディスプレイされることもある



1. アメリカラグシーのバイヤー、デザイナーを経て独立。フランスから移住して、瞬間にアメリカドリームを実現していった。そのほとんどの時間を共に過ごしているのがこのボンネビルである。2. MISTER FREEDOMの店内、ヴィンテージとオリジナルデザインのアイテムが共存する魅力的なショップだ

3. 独立して最初に開業したショップはヴィンテージのリメイクを扱うショップだった。現在のアイテムにもリメイク品をイメージしたアイテムが多い 4. 自身がフランス海軍に従軍した経験を持つため、ミリタリーテイストを加えたプロダクトが多いのも特徴 5. デニムへの造詣は当然深い。彼のデニムについてはまた次号のデニム特集でじっくりと紹介させていただきます。どうぞご期待！

